

第4学年4組 道徳科 学習指導案

- 1 主題名 誰とでも仲良くするために (内容項目 C- (1 2) : 公正・公平・社会正義)
教材名 「お日さまの心で」 (出典: 光文書院「ゆたかな心 3年」より一部改作)

2 主題について

(1) 主題設定の理由

内容項目 C- (1 2) は、「誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。」である。これは、低学年の C- (1 1) 「自分の好き嫌いにとらわれないで接すること。」を受け、高学年の C- (1 3) 「誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。」へと続く、民主主義の基本である社会正義の実現に努め、公正、公平に振る舞うことに関する内容項目である。(「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳」より抜粋)

人の考えや意見は多様であり、それが豊かな社会をつくる原動力にもなっている。性別、価値観、ライフスタイル、障害など、多様な人々が互いに関わり合い、今の社会が成り立っている。しかし、その違いがあるからこそその弊害も多くある。差別や偏見が生まれ、地球規模で社会的な問題にもなっている。私たちはその差別や偏見を乗り越え、互いの気持ちを思いやり、行動を選択していくことで、誰もが住みよい世界を目指すべきである。

この時期の児童は、自分の意志を明確にもつようになり、好き嫌いなどのこだわりがはっきりしてくる。また、気の合う友達とそうでない友達がいることをはっきりと認識するようになる。この結果、気の合う友達同士で仲間を作って一緒に過ごす時間が増え、自分たちの世界を楽しもうとする傾向が出てくる。このこと自体は悪いことではないが、時と場合によっては周りの人間に不快感を与えることになってしまうこともある。仲が良いという理由だけで相手を優遇したり、優先したりすることがある。そのほとんどは無意識的に行われていることが多いように見受けられる。

そこで、まず自分のもつ価値観から偏った行動をしてしまう可能性が誰にでもあることに気付かせたい。そして、その行動が周りにどのような影響を与えているかを考えさせることで、公正・公平な態度で接することが、誰もが気持ちよく過ごすために大切であることを感じさせる。本授業を通して、自分や気の合う仲間以外の存在にも意識を向け、より広い視野で考え、行動を選択できるような態度を育てたい。

(2) 児童の実態 (計 34 名)

本学級の児童は、3年生から子供たちも担任も変わらず、落ち着いた人間関係を築いている。誰とでも仲良く遊べる児童も多くいるが、気の合う仲間と多くの時間を過ごす児童も増えてきた。誰に対しても公平に接しなければならないことは理解しているが、それはこれまで身近な大人から言い聞かされた経験によるもので、なぜそうしなければならないのか、公平に接することの良さには気付いていない。また、音楽係、給食係などの係活動で「よく頑張っていた友達」に手作りの賞状を渡すようになってきた。しかし、「よく頑張る」とはどういうことなのかを明確にしないまま友達を選んだり、自分の都合で様々な大きさ・種類の賞状を作ったりしている姿が見られる。これらは善意による行動だが、その言動が周りにどのような影響を与えるかまでは考えられていないため、意図せず誰かを傷付けていることもある。

そこで、誰に対しても公正・公平に接することで、皆が安心して気持ちの良い生活を送ることができることに気付かせたい。そして、その場にいる様々な立場の人の気持ちを想像し、自身の行動を選択することが大切であることにも気付かせたい。自分や気の合う友達だけでなく、周りに意識を向け、誰に対しても分け隔てなく接しようとする態度を育てたい。

(3) 教材について

資料「お日さまの心で」は、仲の良い友達には特製のカードが、他の子には普通のカードが渡されたことで、悲しい思いをする子が出てしまう話である。主人公である「あけみ」は係の考えた遊びに参加したことで仲良しの「のり子」が作った特製のカードを貰う。しかし、同じ活動を以前から一生懸命にしていた「よしの」は普通のカードを渡される。あけみはその時、よしのが悲しい表情をしていることに気付く。

カードを作ったのり子の「仲良しの友達だから特別に」という気持ちは、児童にとって共感しやすい。一方で、特別のカードを貰ったはずなのに「嬉しくない」とのり子に告げるあけみに対しては大きな疑問をもつだろう。

そこで、教材の内容をのり子の視点から描かれたものに書き換えた。展開前段では、善意であっても偏った行動をしてしまう可能性に気付かせたい。そのために、まず、仲の良い友達だけを優遇したのり子の気持ちに共感させる。その上で、なぜ特製のカードを貰ったはずのあけみが「嬉しくない」と言ったのか疑問をもたせる。次に、「仲の良い友達」だけでなく「周りの皆」にも意識を向けさせていく。動作化を取り入れることで、特製のカードを貰った人、普通のカードを貰った人、周りでそれを見ていた人など、それぞれの立場の気持ちに気付くことができるだろう。後段では、もし自分がのり子の立場だったらこれからどうしていくか考えさせていくことで、どのような思いで接するが、皆が気持ちよく過ごすために必要なのかを気付かせる。誰に対しても公正・公平に接することの良さには気付かせたい。また、教材の前半部分を読み聞かせることで、「お日さまの心」でいるためには自分がどのような思いで行動をしていくことが必要なのか考えさせることで、日常の生活の中で本時の学習を想起できるようにしたい。

3 本時の展開

(1) 本時のねらい

○周りの皆を意識し、その場にいる誰もが気持ちよく過ごせるよう、考えて行動しようとする態度を養う。

(2) 本時の展開

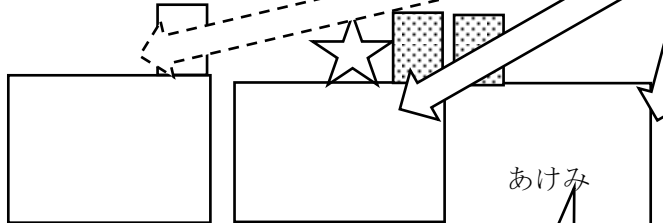
	児童の活動と内容	教師の支援・留意点
導 入	1 「お日さまの心」とは何か話し合う。 ○「お日さまの心」とは、どんな心だと思えますか。 ・優しい。 ・あたたかい。	○児童のイメージする「お日さまの心」とは何か考えさせることで、教材の内容に興味を持てるようにする。
展 開	2 教材「お日さまの心で」について話し合う。 ○「のり子」はどんな気持ちで特製のカードを作ったのでしょうか。 ・喜んでくれるとうれしいな。 ・いつも参加してくれてありがとう。 ・また参加して欲しいな。 ◎「あけみ」は、なぜ「あまりうれしくない」と言ったのでしょうか。 特製のカードを貰った人 ・すてきなカードで嬉しかった。 ・のり子、ありがとう。 普通のカードを貰った人 ・なぜ私は普通のカードなんだろう。 ・私のことは嫌いなのかな。 ギャラリー ・カードを貰っていない人がかわいそう。 ・人によって違うなんてひどい。 ○「のり子」は、なぜ特製のカードをあげたのでしょうか。 ・ <u>3人</u> に喜んで欲しかった。 ・ <u>3人</u> にはずっと仲良くして欲しい。	○教材とじっくり向き合わせたり、事前と事後の変容を見取ったりできるよう、事前にのり子の視点で描かれた教材文を読み、感想を書かせておく。 ○「のり子」の行動が善意で行われていることに気付けるよう、仲の良い友達に喜んで貰いたくて特製のカードを作ったことを押さえる。 ○それぞれ違った立場の人の気持ちを実感できるよう、学級全体で動作化をする。そして、特製のカードを貰った人以外の人たちの気持ちを意識させる。 ○動作化し、それぞれの立場で感じたことを出し合うことで、嬉しい人もいれば不満をもつ人もいることに気付かせる。また、不公平に接することで周りにどのような影響を与えるか捉えられるよう、なぜそのような気持ちになるのか問い返しをする。 ○なぜ不公平な行動をしてしまったのか気付けるよう、再度「のり子」の気持ちを考えさせる。その際、仲よしの友達にどのような思いや期待を持って作ったのか意識させる。

<p>終 末</p>	<p>○あなたが「のり子」なら、係としてこれからどうしていきますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆に特製のカードをあげる。 ・皆に普通のカードをあげる。 ・カードはあげない。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆が楽しくなれるようにする。 ・皆が納得できるようにする。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;">○皆が いい気持ちになれる</p> <p>○「お日さまの心」でいるためにはどうすればよいでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆の気持ちを考える。 ・皆に優しくする。 ・皆と仲良くする。 <p>3. 学習の感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仲の良い友達だけでなく、周りの皆が楽しくなるよう考えたい。 ・今まであまり皆のことを考えずに行動していたけれど、これからは考えていきたい。 	<p>○具体的な方法だけではなく、その行動にはどのような思いがあるのかを板書することで、誰に対しても公平に接することが、皆が気持ちよく過ごせることにつながることに気付かせる。</p> <p>○教材の前半部分を読み聞かせた上で、「お日さまの心」について再度考えさせることで、本時の学習についてまとめる。</p> <p>○本時の学習を通して、考えたことや感じたことを、ワークシートに書かせる。</p>
----------------	--	--

お日さまの心で

あけみはなぜうれしくないのだろう。

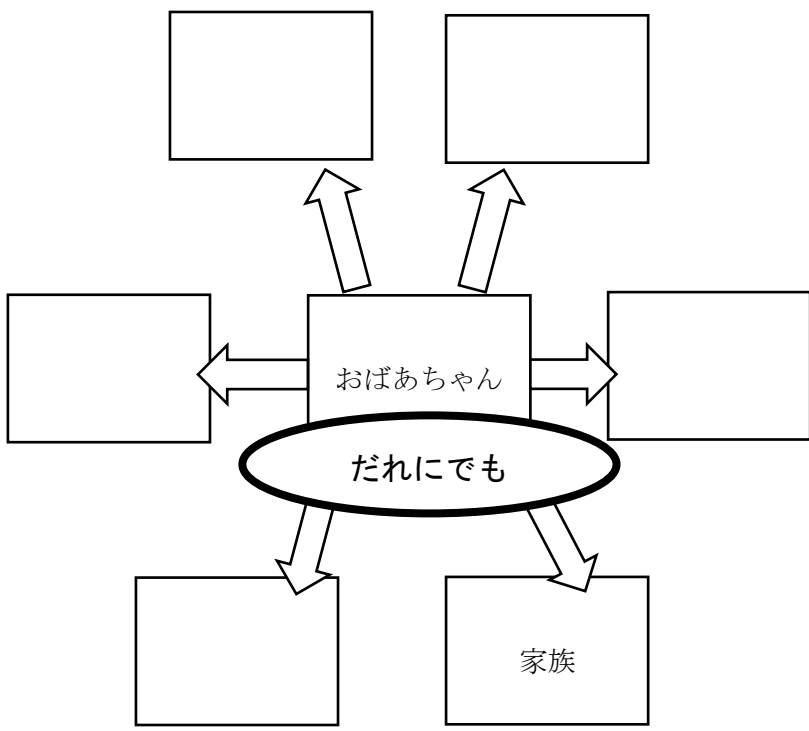
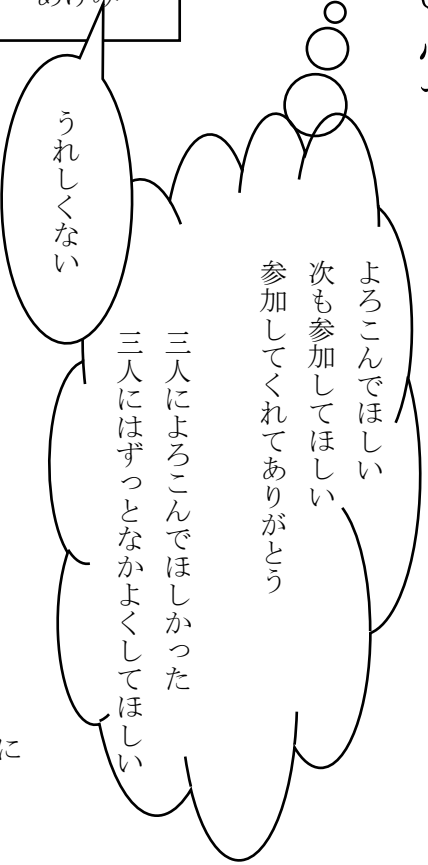
のり子



周りで見ていた人

- ・もらっていない人がかわいそう
- ・人によってちがうなんてひどい
- ・なぜとくせいとふつうのカードが？

- ・うれしい
- ・他の人に「ズルい」と言われる
- ・また参加したい
- ・ちよっとうれしい
- ・なぜちがうのだろう
- ・きれいなのかな



自分なら どうする？

みんなが いい気持ち

- ・みんなが楽しくなれるように
- ・みんながなっとくできるように

お日さまの心で

わたしは、のり子。学級遊びを計画する係をしている。学級遊びは、昼休みの時間を使って、参加したい人が集まって、ドッジボールやカルタとりなどを行っている。最近、しんぱんをやったり、じゅんぴや後かたづけを手伝ってくれたりする人がふえてきたので、お礼に手作りのカードを配ることになった。

わたしはカード作りがとく意だ。きのうも、たくさんのカードを作った。わたしには、大の仲よしのあけみさんやたけるさん、さやかさんがいる。3人のためだけに、とくべつに星の形に切ったり、きれいなもよう入りのものも作ったりした。とくせいのカードのできあがりだ。

学級遊びも終わって、いつものように手伝ってくれた人にカードを配る時間だ。今日もしんぱんをしてくれたよしのさん達に、いつものカードをわたした。それから、3人ととくせいのカードをわたした。

「見て、このカード。きれいでしょ。」

「ぼくのカードだって、かっこいいだろ。」

とくせいのカードを手に、たけるさんとさやかさんはうれしそうにしている。

（やったあ、大成こう！！）

そう思った時、あけみさんが声をかけてきた。

「すてきなカードをありがとう。」

でも、とくせいのカードをもらうのは、あまりうれしくないわ。」

「せっかく作っているのに、うれしくないなんてどうして？」

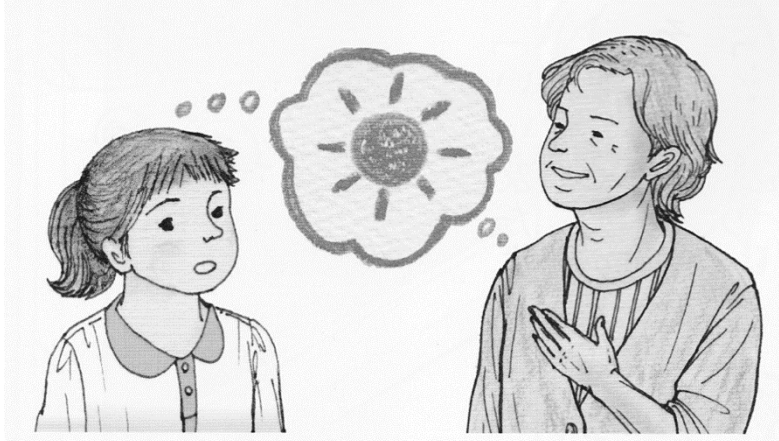
わたしは、思わず声をあげた。



光文書院「ゆたかな心 3年」より改作

名前

お日さまの心で ～あけみのおばあさんの話～



あけみさんのおばあさんは、家族や、近所の人など、だれにでも親切だ。
「おばあさんは、どうして、だれにでも親切なの。」
ある朝、あけみさんはおばあさんに聞いてみた。
「お日さまを見てごらん。お日さまは、いつでも、どこでも、だれにでも、にこにこ顔で
てらしてくれる。おかげで、みんなが気持ちよく生活できる。おばあちゃんも、それを見習って、だれとでもなかよくする、お日さまの心をもちたいと思っているんだよ。」
おばあさんが言った、「だれとでもなかよくする、お日さまの心」、この言葉が、あけみさんの心に残った。

光文書院「ゆたかな心 3年」より改作

☆ふり返り

○今日の学習は楽しかったですか。	◎ ・ ○ ・ △
○自分なりに考えることができましたか。	◎ ・ ○ ・ △
○友達の話聞いて、気付いたことやなるほどなと思ったことはありましたか。	◎ ・ ○ ・ △

感想
